

牧野井のぼん

埴生スエノさん（76歳、牧野下島町埴生商店）

△その1▽

1989. 12. 1号

下島で生まれる

私は大正二年一月九日に下島に生まれました。生家は田中ですが、今踏切の西側にあるマンモスパチンコのところにあったんですね。線路のきわの道が坂になって降りてるでしょ、その降りたところが家だったんですね。農家のこっちゃんから手前に土庭つちぼがあつて、その奥が家でした。

線路西側の道はその時分国道でした。今みたいにアスファルトの舗装はしてなくて自動車もよう通ってました。新国道（ヤングプラザ前の旧国道一号線）ができてからみんな向こうへ行きましたけど、すごいホコリでしたよ。板の間なんか拭いても拭いても真っ白になりました。

それに低いから、穂谷川の水が増えたと水が湧きますねん。家のきわまでは湧きませなんだけど、堤のきわなんかぶくぶくぶくぶく水が湧いてね。

私のきょうだいは七人ありましたが、みんな死んで私一人残ってるんですね。百姓でしたけど、父が早よ死にましてね、一番上の兄も百姓嫌いで、頭のすぐきわにパン屋（フードショップ）田中。今はサンフルーレ）がありまっしゃろ、あそこで店開いて、二番目の兄が跡取ったんですね。だけんど二番目の兄も警察へ出たからね、母が一人で百姓やって、あとは私に残ったもんがみな手伝ったわけです。

水車を踏む

とにかく低いとこですからね。淀川でも昔は一丈二尺（三メートル六〇センチ）水が出たら危険でね、荷物を二階に上げました。百姓家やから、頑丈ですからね、二階に上げたりしてましてん。とにかくよう水につかっていたことは覚えてます。淀川水吹いたり穂谷川切れたりねえ、ようありましたよ。今は河川が補修されてるから大丈夫ですけど。

私らの田んぼや畑は淀川べりの方にもあったんですね。田んぼつくるのに水かい（水掻き）に、小学校時分からよう行ってましたわ。その頃は水利が悪かったから、低い土地やのにちょっと日照り続いたらパーッと地割れしますねん。それで朝四時頃起きてね、水車踏みに行くんですね。朝まだあんばい見えへんうちから行ってね、上に乗って踏んだら水がガポッ、ガポッと上がってきて田の方に落ちるんですね。そう



江戸後期から広く使われるようになった踏み車（埴生さんの話に出てくる水車）。低いところを流れる水を田へ流し込むために人が踏む。

して田んぼに水入れてたんですよ。

行けばあっちにもこっちにも水車みずぐるまがあつて、みな踏んでるわけです。田植えの頃になったらそうして入れるんです。人の背丈よりも大きかったように思いますよ。

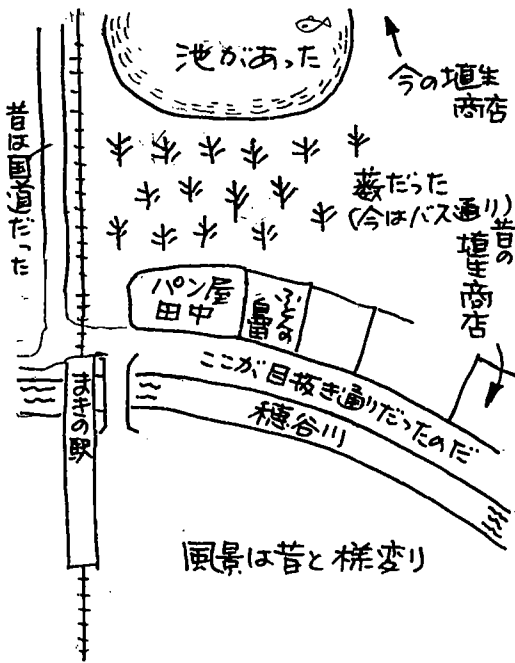
水を取る川は前の穂谷川みたいに太おとくないですよ。淀川に樋があつて水を入れるようになってるんですわ。みなええ加減な川ですけど、行って水車をガバガバ踏むと、水が田の方に走るわけですわ。下島とか上島とかは地が低いんで、みなそうしてました。畑はヤンプラ（ヤングプラザ）の辺りが畑で、田んぼは淀川までの間にずーっとありましてん。穂谷川もあつちやこつちや樋があつて、小さい川からやっぱり水車で水

引いてました。

駅前駅前に池があつた

今「京阪ザ・ストア」いう店あるでしょ。あこにかご池いう池があつて、穂谷川から水引いてましてん。水が出た時に貯えて、そこからも田んぼに水引くようにしてましたんですよ。

今新しいバス道路ついてるでしょ、あそこは竹藪たけくさでしてん。神戸屋のパン屋パン屋してる私の兄はほんきわで、その隣に借家みたいななんありましたから、それで店出したんですよ。その時はあのバス道はなくて、藪くさでした。ほろ酔いほろ酔いさんとかは、み



な後から建ったんですわ。あつこら道なんかあらしまへん。

池の腹だったんですわ。穂谷川の川べりの道は前からあって、田中の店もそっちが表でしてん。裏はずっと藪ですわ。

あの新しい道は前はもっと細くて、歯科大がきた時に通学路としてつくったんですわ。それでね、京阪に出てはった田中さんとこの主人がほろ酔いさんとか島田の本屋さんとかあるでしょ、あそこを三階建に建てはってん。裏が池で低いよってに、表は二階でも裏は三階建ですわ。

うちの今の店（殖生商店）も、池の腹の地の固いところで、買うといた方がええいうて買うたんですわ。あんまりおっきい池じゃないけど、線路のきわまであって池の端に銀杏も植わってたんですわ。三浦医院も池べりでしてん。三浦さんの裏切りは田でしてん。下島に京阪住宅できた時にみな土積ましはったわけですわ。それで宅地になってるけど、そやなかつたらせんぶ田んぼだったんですわ。

トップセンターのとも池だったんですよ。トップの横に宇山の墓（宇山霊園）ある山あるでしょ。あこが池の腹なんですわ。その池つぶしてトップセンター建ってますねん。トップセンターの裏に、公民館の横まで低い土地あるでしょ、草生えてる……あつこらは田んぼでしてん。池やったり田んぼやったりやから、低いんですわ。高島建設かて積まはったんですわ。それで宅地にしはったわけです。

こくも掻き

それまでは雑木林や竹藪やったから、私らお使いなんかに出されたらこわかったですわ。淀川までずうっと、川のへりやうちらへんは藪でしたよってねえ。電気もついてへんし、昔は寂しいもんでしたわ。そのかわり淀川には渡しがあつて、船頭さんがいつも舟で往き来してはりましてんわ。

今のバス道のきわのがけの上に清岸寺あるでしょ、あの辺は昔のままですわ。京都銀行の裏のとも、家が建ってますけど昔は山でした。雑木林でしてん。いろんな木が植わつていて、私らきょうだい、虫捕りやら何やら、よう遊びましたわ。

トップセンターの横（北側）から緑丘の住宅の方へ上がる坂道あるでしょ、あそこの雑木林は昔のままですわ。あつこ

▲こくとば▼

こくも掻き……「こくも」は「こくま」で松葉のこと。

つまり、「松葉掻き」の意。

さらえ……「さらい」。農具の一種で、木製のものは土やごみを掻きならすのに用い、竹製のものは木の葉やごみをさらうのに用いる。

らシメジとかがあってね、よう採りに行ってましてん。その時分はお風呂やらしばで焚くでしょ。私ら家にいる時分、裁縫の合間に、松葉掻きにさらえいって掻くやつね、あれで落葉掻きに行きましたわ。お風呂焚くと松葉がよう燃えますやろ。あの辺松が多かったからね、こくも掻きに行っていました。落ち葉集めることをそう言うてました。

草履で通学

小学校は牧野小学校（牧野尋常高等小学校）でした。今の牧野小学校やのうて、御殿山にありましたわ。その時分招提は招提村で、私らの方は牧野やっただです。学校はみな歩いて行ってましてん。御殿山なんて駅、あらしまへんでしたよってなあ。阪の今池公園になってるあの下の方をずっと歩いて行ったんです。

その時分は下駄や靴なんかまだあんまりありませんわ。雨の時なんか下駄はくけど、ふだんは親のつくってくれたワラ草履はきますねん。朝、新あたらはかしてくれまっしゃろ、学校で遊んで歩いて帰ってきたらねえ、草履がへってしまってることとがようありましたわ。小学校五年生ぐらいからゴムの靴ができました。私とこは町に親戚やらあって、鞆たもとやら靴やら手に入りましたけど、ふつうみなワラ草履でしたわ。

日生住宅も池だった

うちの母親も下島で、下島から下島へ来てましてん。低いよって雨が三日も降ったら田んぼなんかせんぶ水につかって、米なんか三年ぐらいとれなんだ言うてました。私らの時分でも、上島の方から養父やぶの方、三日ぐらい降ったらずーと水が出て真っ白になってました。学校行く時かて、ピチャピチャピチャピチャ足まくり上げてねえ。御殿山の入口の辺りでもつかってましたよ。ジャバジャバ入っていかなあかんことなんぼもありましたわ。

小倉の藪を抜けて降りて行ったとこに、日生住宅ってありまっしゃろ。あこは池（柏井池）でしたん。今も一部残ってますけど、蓮池の大きなのでしてん。真ん中に鎮守の森みたいなのがあってね。ちよっと雨が降ったら、あの辺もずうつとつかってましてん。そこ通って御殿山の山登って学校行ってましてん。

私の子供の家が川（甲斐田川）の橋をほん渡ったすぐのとこにあるんですけど、前は川の向こうが池で、台風の時は池の風がきつうて、うちから泊まりに行っただげなあかんかった。瓦飛んだりしますねん。今は鉄筋の家にかえましたけど。

電灯がついた

私が生まれた年は大正二年の一月九日ですけど、その晩から電灯がついたんですわ。「あんたはローソクでおっきなっ
てへん」てよう皆から言われましたわ。そやから私たちは、
電灯とか生まれたときからあったわけですわ。

その前に京阪通ってたでしよ、私の姉ぐらいの時かな、そ
れで家がちょっと西へ寄ってね、電車の線路の下の土地売っ
た言うてました。線路ができるので家建て直して、屋敷(敷
地)も小さなった言うてましたけどね。京阪の駅も、枚方
の北海道“いうぐらい寒い駅でしてん。今みたいと違ってお
粗末やったしねえ。

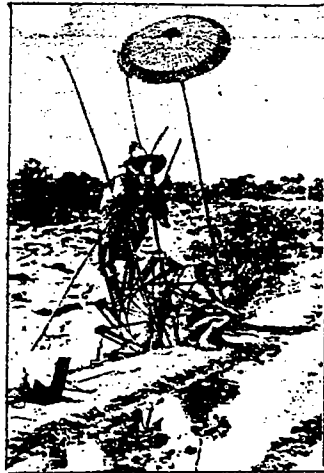
遊び

子供の時分の遊びいうたら、おじゃみしたり、縄跳びした
り、ちょっとお人形さんこしらえて遊んだり、そういうよう
なことですわね。今の時代と違って、どこへ映画見に行く
とか、そんなんやのうて、おじゃみとか縄跳びとか、のんびり
してました。

私の兄なんかは男やから、ようどジョウなんかとってきて
ました。水がよおけ出た時なんかねえ、魚が田の方へのぼっ
てくるでしよ、^{夜振}“言うて、火いつけてねえ、みんな

とりに行ってましたわ。田んぼの中に淀川からの水が沢山入
って、田一面になるでしよ、そのとき鮒やら鯉やら何やら、
沢山とれますねん。ようみんなとりに行ってましたわ。

(続く)



水車踏み (昭和8年香里園付近)

牧野井のぼん

埴生スエノさん（76歳、牧野下島町埴生商店）

△その2▽

1990. 1. 1号

手伝い

私ら苦勞してる方ですわ。早よう父親に死なれて、田植えやら秋の穫り入れとか手伝いました。稲刈りが終って束ねて、竹竿に干すでしょ。それをまた寄せて稲こきでしょ、なかなかえらいですわ。それで私らも手伝ってましてん。田植えだけはしませんでしたけど、田植えの時も「けんずい」言うて、三時におやつを食べますねん。田植え時分とか秋とかね、それは私らがつくって持って行きました。

△こ・と・ば▽

けんずい……間水、硯水などと書き、間食（けんし）が訛ったものとする説がある。昼食と夕食の間に食べるおやつのことである。

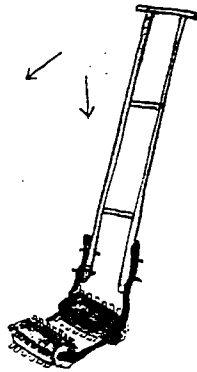
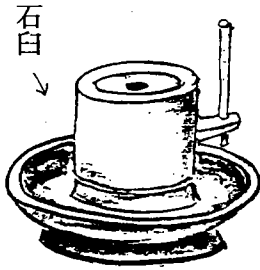
麦もつくってました。麦時分もかなんですわ。かゆいから。

田植えの間、麦をだーっと軒に積んでますねん。うちはあんまり焚かへんかったけど、家によっては麦ワラ焚いてお風呂わかしてました。うちは稲ワラを使てました。ワラは結んでくべてました。麦ワラはちよっと固いし、さくしい短いからできしませんけど。

草取りがありました。ガラガラガラ押ししてね。昔は今みたいに薬（除草剤）撒かへんでしょう。そやから草いっぱい生えてくるから、ガラガラ押し草取り器で、暑いでしたよ。真夏にしてたら、下の水も熱いでしょ、ほんまに目が回りそうでしたわ。

草取り器：明治の中頃から全国に普及した。それま

では乱植えをしていたが、草取り器がつかいやすいよう、正条植えをするようになった。



白挽きもしました。白は上と下の二段になって、下の白には下駄の歯みたいな溝がいっぱいついてますねん。上の白に穴があいてて、そこからお米入れて、把っ手持ってゴロゴロとやると、もみの皮がむけますねん。糠のとれた米を俵に入れんなんでしょ、それが冷たいんですわ。中い入るから足袋なんかはかれしません。素足でするわけですわ。そんなは納屋でしましてん。どこの家でも納屋あるからねえ、納屋に電灯ひっぱったり、石油かなんかのランプ吊してましたわ。その時分はどの部屋も明かいことありませんもんね、電灯は二つか三つとってたらええとこやもんね、家の中で。

貝を取る

タニシやら、子供の時分ずっとひらいに歩きました。田刈りしたあとね、タニシの穴がぶつぶつとあいてますねん。ほいで子供同士でひらいに行くんですわ。家の洗濯たらいにつけ泥吐かせるんです。それで味噌和えしたり、佃煮みたいにしたりしました。

京阪の下になってる池にね、ドブ貝多かったです。ドブ貝も生姜入れてたくと生臭なくてね、よう食べましたわ。淀川へもシジミやらとりによく行きました。みな子供同士の遊びですわ。「行こか」いうようなもんでね。

淀川べりは桑の木が磯島へんまでずうつとあって、子盗り

が来るから危ない言われてました。桑の実もよおけ食べました。口の端が黒うなって、「食べてきたな」て、よう言われました。

祭のとき

あの時分は、枚方パークでねえ、夏は火花が毎日あがりましたよってねえ。ものすごう数が焼けるほどの火花がバースとありましたわ。

盆とか祭とかは、昔はもっていいいにしてましたね。今はうちらでも、鯖寿司しておもちと親戚配るのが精いっぱい、お客さんもしたことないですけども、私ら子供の時分でしたら、京都や大阪の親戚でも何日も来て泊まってきました。

お盆やでも、主人の兄弟やらみんな呼んでしてましたけど、今はそんなんしませんのやなあ。うちの子やらかたずいてたかて、お正月ぐらいは挨拶に来て、一晚ぐらい泊まってもらうけど、お盆やらみんな寄っていうことはしませんもんなあ。今商売もあるしやけど、あんまりどこともないみたいですよ。ただ、祭は氏神さん（片埜神社）は、今の方が派手になってますわ。お参りが多いからねえ、栄えますわ。この頃は夜店やとか、昼も店出してるしねえ。

この辺は、昔から鯖寿司はしますねん。それとおもちとね。京都とこらへんは鯖寿司ですわ。いなりも持ってきますわ。

お正月

年末はていねいでしたよ。お煮^くなんかでも、小正月まで食べるだけつくりますねん。お正月の間はお金使わんように沢山つくりましたわ。正月のちは自分とこの分だけついでました。お祭はそこら配るからよおけしますけども、お正月はよそ配るいうことないから、毎日の家のお雑煮の分だけついでましたよ。私もつきましたよ、ひと白ぐらいやったら。

正月は、着るもんぜんぶ新にかえますねん。昔はパンツやなく、お腰（腰巻）とかお襦袢^{じゆばん}とか、そんなを新しくかえるんです。それは呉服屋さんが回ってくるんです。背負うてね。家族が多いとなかなか物いりですから、「あそこの人、寝てはる。お正月のこしらえ気いつこてはるんやなあ」、そんなん言わんならんようなこともありましたわ。

そやからうちらかて、お米とれたの売ったりして着物買うたりせななりませんでした。まっさらの着て、気持よろしいですわねえ。ぜんぶしかえてねえ。昔はそんなんで、物事たいていそうやったんですわ。

正月料理は、粗末なもんでしたわなあ。十五日までだったら、お野菜のたいたのと棒鱈と数の子たいたのがいっぱいありました。ほかに魚いうたらあんまり……。今なんかは「お刺身食べよ」とか毎日でもできますけど、昔は私んところでも

春の魚島^{うおしま}とか、時期が決まってきましたわ。買ういうても、売りにこんことにはないしね。そのかわり数の子やら棒鱈やったら、どこのおうちでもふんだんに食べてますわ。数の子でも沢山漬けてねえ。毎日おんなじおかずですけども、量が多いでしょう、そのかわり小正月まではあんまりお金使わんようにいう習慣でしたわ。あるもん食べるということね。家でニワトリ飼^かうてるから、カシワなんかはふんだんに食べてますわ。どこの家でも飼^かうてましたからね。今のカシワと、味が違いますわねえ。トリの骨でおだししてごはん炊いたりねえ。

蛸を食べた

私の家の辺には、魚伊^{うおい}さんが来てはりました。鱧^{にしん}の干したんとか、鮭^{さけ}とか、ちりめんじゃことか、麩^ぶとか高野豆腐とかを車に積んで引いて回って来たはりました。それからだんだん生物^{なまもの}を扱うようになってね。私ら子供の時分、軒下にぶら

△こ・と・ば▽

魚島^{うおしま}……陰曆三月から四月にかけて、瀬戸内海で鯛が多くとれる。大阪で安くてうまい鯛が食べられるこの時期のことをいう。

下げるような大きな蛸を食べる習慣がついてました。はげっしょ（半夏生）いうて、旧暦六月半ば頃の田植え終わつた時分に、必ず蛸とか食べてました。「今日ははげっしょやなあ」言うてました。私ら商売するようになってからも、蛸はずいぶん売ってました。

それから魚島いうてね、お金かまわんと大きな鯛を買って食べる時期もありましたわ。だけどふだんは固い固い鰯の干したんとかちりめんじゃことか塩鮭とか食べてました。鰯は水につけてからお茄子と煮いたりしてましたわ。そんなんも毎日は売りにきませんもんね。

食べる時は、お膳が一人ずつ決まってる、みんなお膳で食べますねん。ちゃんとふたする塗りのお膳でね。そこにお皿とお茶碗と湯のみぐらいのってますねん。おひたししたり、芋とか煮いたり、あと干物がちよつとあったり、おかずいろいろたらそんなもんですわ。ごはんかて麦ごはんですよ。ほかに

△こ・と・ば▽

半夏生……半夏（カラスビシャク。ドクダミ科の多年草）の生える頃、の意で、太陽の黄経が一〇〇度となる。夏至から十一日目（太陽暦では七月二日頃）のことをいう。

魚いうたら、鯖とか鰯とか生鮓、これはこの辺の人、みんな食べつけてましたわ。

おもちゃ屋さん

私らが子供の時何か買ういうたら、どっかへ買いに行きましたよ。今の清香幼稚園知ってはりましたる。上島の方と医科大学のグラウンドの方と二つありまっしゃろ。あそこの奥さん、幼稚園する前、おもちゃ屋さんしてはったです。今の枚信（枚方信用金庫）のところですわ。学校の運動会でも、あの奥さん車引いて来てはって、「おもちゃ屋さん」で通ってました。家におもちゃいろいろ置いてねえ。あの奥さんももう亡くなりはりましたけど。おもちゃのあと、幼稚園したい言うて始めはったんですわ。

私らどこで買うてたんかなあ。氏神さん（片埜神社）の手前にタバコ屋さんあるでしょ。古いお店ですもんね。竹島さん、あこで買うてたんか、そうか店でも出てたんか。色紙やら何やらみなで遊んでましたもんねえ。とにかく店屋さんいうたらあそこ（竹島さん）でお砂糖でもみな売ってはって、私ら子供時分買いに行っていました。今でもちよつと荒物置いてはるし。夏は氷をかいたり駄菓子も売ってましたけどねえ。淀川に沢山魚釣りにきはるから、駅に店出したりもしてはりましたわ。

牛

牛もいてました。私らの兄が家を出るまでは、サツマイモとかエンドウとかつくるでしょ、それを京都の五条とかどっかの市場まで出してました。それを、晩の十二時頃こっち出たら朝五時頃向こう着いて、ほで朝の市にかけけるわけですわ。踏み切りで牛車を通る時にパーンと電車にはねられたりね、そんな事故もありました。よう牛が轢かれたとか聞きましたよ。

どこの家かて牛がいました。牛の草刈りに、堤防の腹へきようだいして行きました。大きな釜で煮いて、麦ワラを入れたり干し草をいれたりして食べさせてましたわ。

(続く)

洗濯井戸

増生スエノさん(77歳、牧野下島町増生商店)

△その3▽

1990. 2. 1号

洗濯

洗濯は、洗濯機なんかあれしませんよって、たらいで洗濯板使て手で洗てました。水は井戸水ですわ。ガラガラッと鎖のついたくるべ(釣瓶)で汲み上げました。滑車もないとこは、パーンと投げ入れて、たぐり上げて汲むわけですわ。洗濯かて、ていねいでしたよ。ござ敷いて、霧吹きでふいて、浴衣なんかパーンとしみのし(敷伸)して、乾いたらきれいにたたんでね。真夏の昼間なんか田んぼは暑いさかい、十一時頃帰ってきて、三時頃まで家にいる間にそんなことしてました。

私らも「踏み」言われて、よう踏みました。こういうふうにするときれいに伸びてね、シャンと糊も張ったるでしょ、そしたら浴衣もしゃきっとしたの着られますねん。家族も多いさかいたいへんやったと思いますわ。初めはねえ、石鹼や

なくて灰のあくねえ、あれを濾したんで洗ってましたわ。

機も織った

昔は黒地に柄のついたお布団で、裏が紺でね、手織りでした。私の母親なんか、春なったら家で織ってましたわ。春の暇な時に機織りますねん。ずっと糸通してね、トントンと足で踏むようになってるんですわ。それで糸がたがい違いになって、その中を杼いうて糸通したのがありますねん、それを



蚕に桑の葉を与える

をま
らこ
らこ
ろる
かと
こ織
とをた
う機し
飼も
をり
蚕と何

機 — 明治の初期から

普及したチヨンコバ

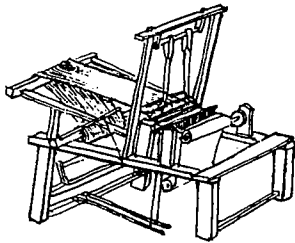
タ（高機、京機など

ともいう）。従来の

ものより、倍程も能

率よく織られるよう

になった。



スーと通して、トンと押すでしょ、そしてまたスッと通して
トンと押して、着物もみな織ってましてん。
蚕もだいぶ飼いました。そして絹糸をとるでしょ、母親が
たあーとお釜で煮て糸ひいてね、絹糸とりますねん。それを
織るところに通したら、きれいな白が織れました。
桑の葉も、淀川の堤防まで一人で摘みに行ったら子盗りに
とられるからいうてようおこられまして、友達と一緒にとり
に行きました

とれた糸を染屋さんに出しますねん。絹糸を入れるときれ
いな絹ができますやろ。

緋ひやったら、模様のところを糸でくくって染屋に出すんで
すわ。そしたらそこが染まらんで緋になりまっしゃろ。

女が機はたでけんかったらお嫁に行かれへんというので、み
んな家で機織ってました。枠をつくってそこに帯のように糸
をまいて、それを機でトントン織ってましてん。私らの親も
ずっと織ってました。田植えの着物やらも家で織って、お嫁
に行く時もみんな家で織ったものをよおけ持って行きました。
家でもきれいな織れますもんね。

柳の皮むき

私は、御殿山の小学校出てから、どこも行くところあらしま
せんからね、お裁縫行ったりしてました。

春になると、柳行李の仕事がありましたわ。下島へんでは、裏の方に池ありますやろ、柳の枝を水につけてから皮をむいて、それを晒して立てて干してね、行李に編むんですわ。但馬の方に売ってはったように聞いてます。そんな皮むきの仕事とかしてました。家をつくったエンド豆ね、それを今枚方青果（枚方市青果物出荷市場）してはる山條さんのお祖父さんが山伊さんいうて豆寄せてはって、その皮むきの仕事とかもしました。

店を出す

うちの前の店は、穂谷川の川べりですねん。駅に近い一番角が田中でその次が島田のふとん屋さん、その次が神田歯科、それからちよっと行って入江の豆腐屋でうちですねん。サンブラザ調剤薬局はうちが貸してますねん。一階が薬局で、二階と裏に私らが住んでるんですわ。

主人の出身は下関ですな。下関の青物問屋でしてんけど、鰯の生とかも沢山入ってくるんです。ほで、みんなそういう商売やって、魚も野菜も果物もいろいろ扱ってね。主人は兄さんと宮崎で山を買って事業をしたのが失敗して、兄さんは姉さん（奥さん）の実家のある広島に帰り、主人はこの歯科大に来てたいと頼ってこっち来たわけですわ。それからちよっと貯金局に出てたらしいですが、主人ソロバン達者

ですよって、友達に「淀の競馬場来んか」いうて誘われて、長いこと務めましてん。総務いうとこで、配当金の計算するのんもあの時分はソロバンでしてんわ。

競馬は行ってる間は収入よろしいけども、一年中ありませんなわ。今やったら失業保険もあるみたいやけど、あの時分は間は稼ぎがないよってに、その間だけでも小遣い稼ぎしよか、いうてしだしたんが八百屋ですな。

店始めたんは昭和九年の五月八日ですわ。それまでにもう結婚して子供もできてました。私も「穴場」いうて馬券売るところ行ってましてん。あの時分は日傭（賃金）がよって、食べるぐらいは二人でいけるけど、子供できるのにそんな固定してないこととしてられんからいうて、ちよつと島田新造さんが八百屋してはって、「殖生さん、あんたそんなふらふらしんと、ここしいな。字も書けるしソロバンもできるのに、しいな」言うてくれて、ほでそこを買って始めましてん。その場所が、穂谷川の川べりのサンブラザ調剤薬局のとこで、広いけど平屋でした。

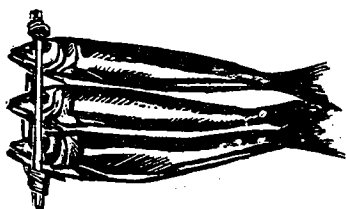
魚にうるさい

うちの主人は、荷物なんかあんまり持ったことないからね、ちよつとできしまへんねんなあ。自転車もよう乗らしまへんねん、その時は。「自転車でも乗って食べんならんような男

なら死んでしまえ！」て、親が言うてはったらしいですわ。そやから、商売しだしてから自転車のけいこしましてん。

今でも「あんたんとこの主人は丹那さんやったなあ」て言われたりしますけど、「貧乏してるのに、そんな偉そうにしても通らへんのに。私ら百姓やからそんなむつかしいこと言うてもわからへん」て私が言うてましてん。そんなんでしたわ。

うちは店始めた時から魚も扱^{あつて}てますけど、主人は山口県で海に近いでしょう、ここの人が生^{なま}節^{ぶし}よう買^かうてくれるのに、「こんなもん、何で食べるんや」言いますねん。「こんなダシとるようなもん」て。「こころはそれ買^かうてきたら売れます」って私言いますねん。鰯^{いわし}子とかね、あんな干したんは売りながら嫌^{きら}いますねんな。自分はメバルとか、生きのい



干物を食べるが多かった

いのんばっかり食べて大き^おな^なつて^つるけど、私とこが店始めた頃は、そんなこころへんの人は知らはりしまへんねん。

四時起きで仕入れ

それでも、魚のことはちょっと詳しいというので、売りだしたら「殖生さんとは珍しいいいお魚がある」いうて、お客さんもつきました。あんまり料理は上手じゃないけども、まあさばくのは自分の家でするから慣れてますねん。河豚^{かぶつ}の料理も家でしてみたいすわ。

魚の仕入れは、毎朝天満の市場行ってましてん。実家は問屋やから朝四時に起きてましてん。子供も一緒に起こされてたから、朝起きはあんまりつらい方やなかったんですわ。天満までは電車で行ってました。四時に起きてね、枚方発の一番電車に乗りますねん。

枚方までは歩いてだいぶんありますねん。足は達者でしたからね、かご二つ合わせたのを肩にかけて行ってましたわ。それから貨車ができて、貨車で荷物を運んでくれるようになったりしましたやろ、ほんで貨車で荷物降ろしてましてん。そしてら今度トラックができて、運送屋がトラックでぜんぶ降ろしてくれましてん。そやからうちの主人は自動車よう乗らんずくですわ。子供らの代になってから免許取って自分で車で行ってますけど。

うちの主人は産経（新聞）とってましてんな。電車ん中でチャーッと読んで、調べて行ってみたいすわ。新聞に相

場がのってるしね。「今日はこのおっさん、いっちょひっかけたろ」思っても、パンと先に値段言うんです。カマボコなんかも昔やから沢山買うでしょ、そんなんでも、十二月入ったら先お金パツと渡しときますねん。正月前は値上がるよって、高とられんように先渡しとくわけですねん。そんな商売してましたわ。

配給品を扱う

戦争始まってからは配給になりました。お砂糖とか調味料とかせんぶ登録制やったから、その権利取ったわけです。商売は配給品の扱いでけっこう忙しかったですけど、魚は毎日入らしまへん。三日に一回か週に二回ぐらいですわ。お客さんにあれこれ言わさんで、入ったものを買うてもらわなしようがないようなもんですわね。これほしい、あれほしいというんじゃなくってね。

主人は軍隊に行つてませんし、徴用もなかったですわ。そのかわり、終戦前なんか天満まで行つて帰るのが大変でしたわ。朝に出ても何時に着くかわからへんでした。空襲でねえ、もう天満橋なんかガタガタ揺れてねえ、淀川も火の海みたいだったそうですよ。招提の同業者の方なども、寄った時に、「ほんまに『南無阿弥陀仏』が出たなあ。怖かったなあ」って言つてはりましたわ。

私もきれいな好きですよって店きれいにして、気持ちいいからいうてせんぐり(だんだん)お客さんもついてくれはって、よう売つてました。税務署が「こんなところで、ようこんだけ売るなあ」言つてはって、そんだけ税金もとられましたけど、でも主人も商売人の子やから、商売のやり方工夫してました。それが、主人はお酒ちよつと好きやったからねえ、ひと晩のうちに亡くなりました。

公民館には、みんなよう行つたはるようですけど、私はちよつと足が不自由でさかいなあ。下島の常照寺に尼講あまぢてありますねん。うち浄土宗でっしゃろ、そこはよう知つてくれはるから、足出してええからいうんで、月一回だけお参りに行つてます。ほかは老人会も公民館もどっこも行つてしまへん。店番してるぐらいのことですわ。座つてやる仕事やったらもつと間に合うんですけどね。

(了)